



Master of
Business
Administration

北九州市立大学
ビジネススクール
2024

北九州市立大学大学院 マネジメント研究科





北九州市立大学大学院
マネジメント研究科長

松永 裕己

2010年代に入り、現代社会の特徴として「VUCA」が指摘されるようになりました。Volatility、Uncertainty、Complexity、Ambiguityの頭文字をとった「VUCA」は、変化の早さや予測困難性を意味します。今の単純な延長線上に未来はないという認識です。例えば、この言葉が広く使われるようになる少し前、2007年にアメリカでiPhoneが発売されます。今の生活を考えてみれば、それがわずか十数年前の出来事とは思えません。数年あれば世界は変わってしまう時代に我々は生きています。

iPhone発売と同じ年に、北九州市立大学マネジメント研究科(K²BS)は設立されました。「VUCA」というまだ言葉は普及していませんでしたが、そのとき我々が考えていたのは先が読めない時代でいかにして環境の変化を機敏に捉え、素早く行動できる人材を育成するかということでした。K²BSの創設に合わせて発行したフリーペーパー『Agilitas(アジリタス)』は、機敏さや柔軟性を意味する英単語「agility」を語源としていました。不透明さと変化の速度は増えています。その中で、企業はどうすれば持続的成長を実現できるのでしょうか。個人はどのような能力を身につけていくべきなのでしょう。

K²BSでは、理論的学びと現場的学びを重視しています。理論は進むべき方向性を見通す羅針盤として不可欠です。現場は自分の寄って立つ場所(課題)を把握するのに欠かせません。両者があってこそ、実践的に役立つ学びが可能になります。もうひとつ重視しているのは、主体的かつ相互に学ぶことです。ビジネススクールでは、教員が喋り続け学生は一生懸命にノートを取るという講義はありません。学生間で意見を出し合ったり、教員に質問をぶつけたり、チームでアイデアを構築したり、双方向型で授業は進みます。「わかった」ではなく「使える」、それが必要なことです。K²BSでの2年間は、日々の業務経験からだけでは習得に膨大な時間がかかるはずの能力を早く凝縮して得ることを可能にします。意欲溢れる皆さんをお待ちしています。



経営系専門職大学院認証評価について

北九州市立大学大学院マネジメント研究科は2020(令和2)年度に3度目の(公財)大学基準協会による経営系専門職大学院認証評価を受け、同協会の経営系専門職大学院基準に適合していると認定されました。

北九州市立大学ビジネススクール(K²BS)の概要

名 称	設置時期
大学院マネジメント研究科 マネジメント専攻	2007(平成19)年4月
課 程	学生定員
専門職学位課程	60名(1学年30名×2年)
学位名称	修業年限
経営学修士(専門職) Master of Business Administration【MBA】	2年(最長4年までの長期履修学生制度あり)
	修了要件
	44単位

北九州市立大学ビジネススクールの特徴



実践知と理論知

アカデミックな「知」と経験ベースの「知」の双方が融合した実践的なプログラムを提供しています。そのため、様々な分野のスペシャリストを特任教授として招聘しています。

ビジネスとパブリック

マネジメント能力は、ビジネス分野はもちろんのこと、パブリックの現場にも求められる能力です。これら双方にとってベースとなる科目に加えて、ビジネス・パブリックそれぞれの応用科目を配置しています。

中華ビジネス

グローバル化が進むビジネス環境の中で、北九州市立大学の中国語教育の蓄積と中華ビジネス研究の蓄積、中華圏の有力ビジネススクールとの連携をベースにした、中華ビジネス科目を配置しています。

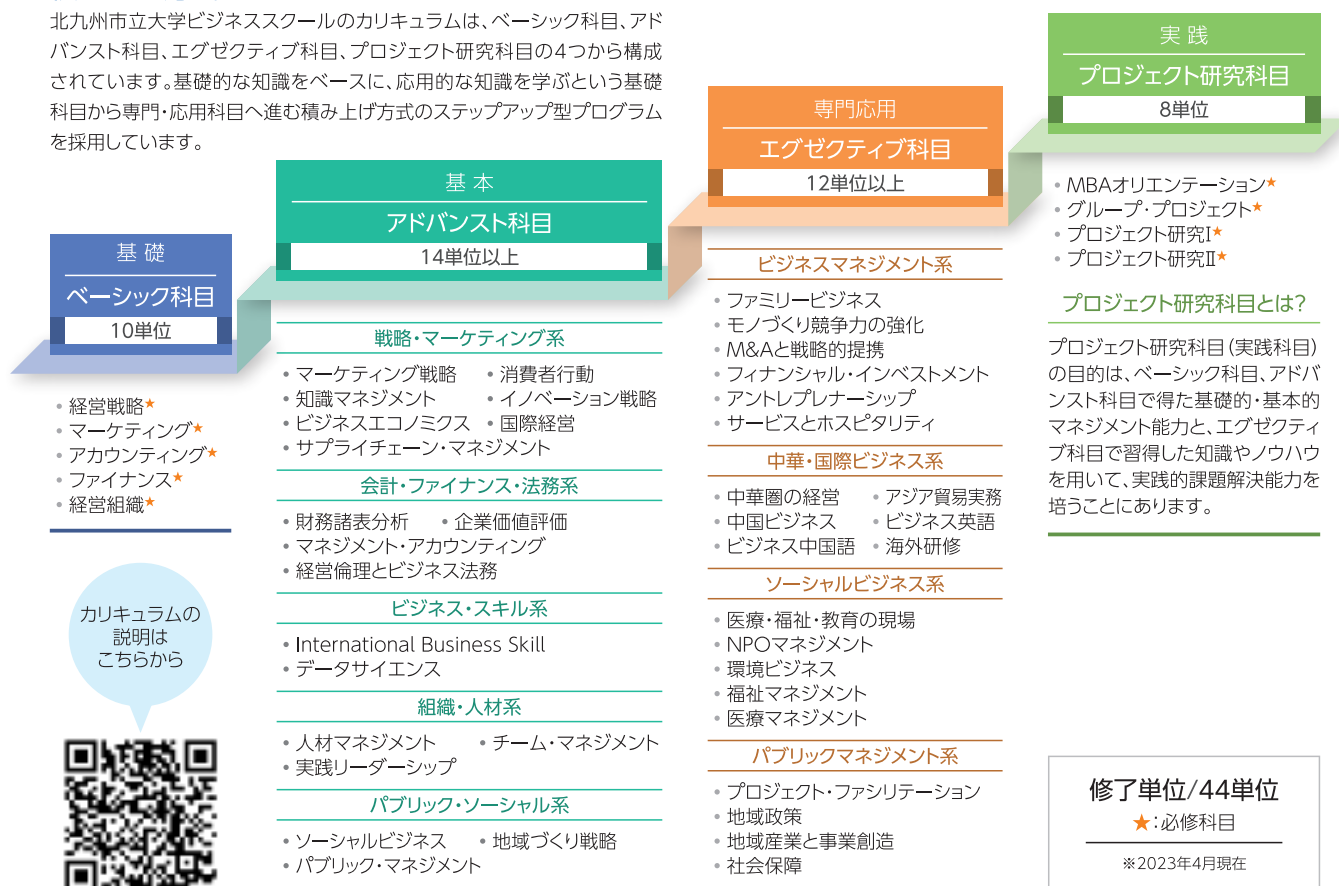
ソーシャルビジネス

“課題”解決先進都市である北九州市の特性を踏まえて、医療・福祉・環境・安全・安心などの社会的な問題の解決手段として注目されるソーシャル・ビジネス系科目を配置しています。

カリキュラム

積み上げ方式によるステップアッププログラム

北九州市立大学ビジネススクールのカリキュラムは、ベーシック科目、アドバンスト科目、エグゼクティブ科目、プロジェクト研究科目の4つから構成されています。基礎的な知識をベースに、応用的な知識を学ぶという基礎科目から専門・応用科目へ進む積み上げ方式のステップアップ型プログラムを採用しています。



About K²BS 4つのポイント

1

K²BSネットワーク 累計430名

2008年の開設以来、ビジネススクールの修了生数は387名。在学学生・修了生のネットワークは430名にのびます。プロフィールも、経営者や企業の管理職・公務員・医師など多種多様。修了生で組織される「マネジメント研究会」の活動も活発です。

2

在学生の平均年齢 43.4歳

「次の一手を考えるための新しい視点を学びたい」「逆境に負けない組織づくりを学びたい」など日々重責を担いながら様々なマネジメント課題を抱えるビジネスパーソンが集うK²BS。授業では、常に活気にあふれたディスカッションが日々行われています。

3

専任教員 一人当たりの学生数 5人

多様なバックグラウンドを持つ社会人学生へ研究指導・サポートを行う体制も整っています。専任教員が「修学アドバイザー」となり、入学から修了まで学生一人ひとりの特性に応じた履修計画に対してアドバイスを行うほか、学生が自由に各専門分野の教員から助言を得られるように、オフィスアワー制度も設けています。

4

海外研修やフィールドワークなど、 グローバルとローカルを 実践的に学べる多彩なプログラム

グローバル的視野を持った高度専門職業人を養成すべく、2013年から「海外研修」を集中講義として行い、海外の企業訪問等を通じた国際感覚の涵養やビジネスネットワークづくりを推進しています。また、地域事情に精通した人材を育成するためのフィールドワークや、ケース・メソッドを通じ実践的な課題研究を行っています。

働きながら学ぶ [社会人の修学環境]

K²BSは働く皆さんの味方です!

通学に便利な
小倉サテライト
キャンパス
と
北方キャンパス

平日は夜間に授業

平日は夜18:30～90分×2コマの授業を
小倉サテライトキャンパスで!

土曜日は昼間に授業

土曜日は北方キャンパスで終日授業

自習室や図書室

北方キャンパスの図書館では、終日利用可能な大学院生専用のスペースを備えています。また北方キャンパスの資料室や小倉サテライトキャンパスにも自習スペースや図書、パソコンなどを備えています。

修学アドバイザー制度

専任教員が入学手続き後から修了まで、学生一人一人の特性に応じた履修モデルを助言する修学指導の制度を導入しています。学生の課題達成を強力にサポートします!

専門実践教育訓練給付金制度

K²BSは、専門実践教育訓練給付金制度の指定講座です。一定の要件を満たした場合、修了後に入学金・授業料の一部がハローワークより支給されます。(詳しくは18ページ)

長期履修制度

標準修業年限である2年間での修了が困難な場合、最長4年間で計画的に履修し、修了する制度です。授業料は2年間分の授業料の総額を、長期履修が認められた年数で分割して納めます。(詳しくは18ページ)



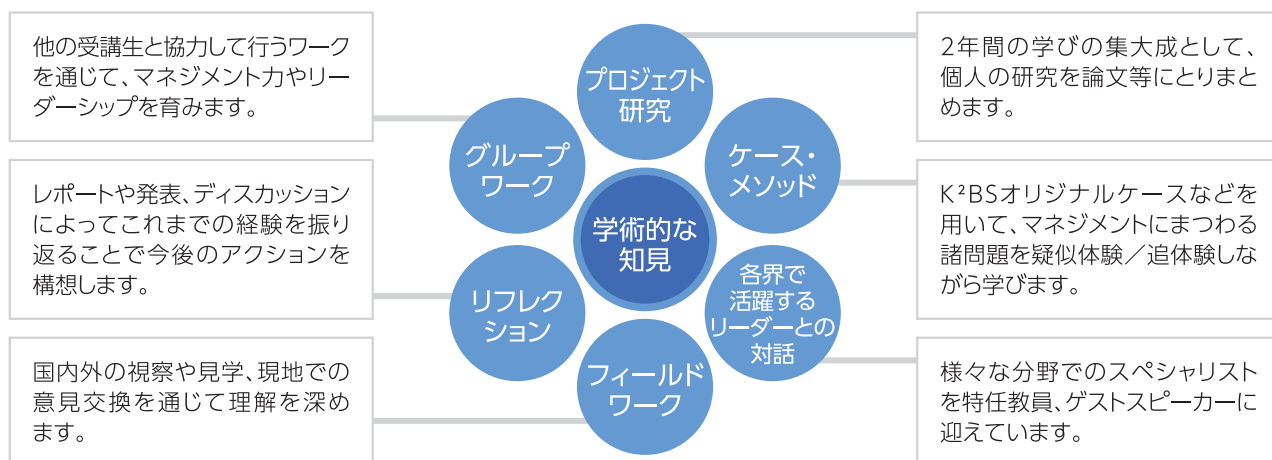
サテライトキャンパスでのディスカッションの様子



北方キャンパス

■ インタラクティブな学びの場

企業のマネジメントの諸問題を追体験する「ケース・メソッド」をはじめ、グループワークやフィールドワーク、リーダーとの対話などインタラクティブな授業により意見を交わしあい問題解決のアイデアを探るアプローチ法を多数用意しています。



小倉駅周辺のフィールドワーク



由布院のフィールドワーク

■ 2023年度 年間スケジュール

1年次	4月8日	4月10日 8月12日	6月10日	7月29日	8月14日 9月30日	8月18日 9月16日	9月	10月2日 2月9日	12月1日	12月28日 1月4日	1月27日	2月10日	
基礎科目等を履修するとともに、グループでの輪読や企業・業界等の分析を行う。	■ 入学式	■ 1学期講義	■ 購読・成果報告会	■ 企業・業界等 分析報告会	■ 夏期休業	■ 集中講義	■ 海外研修(任意)	■ 2学期講義	■ 経過報告会	■ グループ・プロジェクト	■ 冬期休業	■ グループ・プロジェクト 最終報告会	■ 春季休業
修学アドバイザーによる 学習サポート													
2年次	4月	4月10日 8月12日	7月29日	8月14日 9月30日	8月18日 9月16日	9月	10月2日 2月9日	1月27日	12月28日 1月4日	1月27日	3月23日		
専門・応用科目等を履修しつつ、指導教員の指導のもと、学位取得のためのプロジェクト研究に取り組む。	■ 指導教員の決定	■ 1学期開始	■ プロジェクト研究 骨子報告会	■ 夏期休業	■ 集中講義	■ 海外研修(任意)	■ 2学期講義	■ 経過報告会	■ プロジェクト研究	■ 冬期休業	■ プロジェクト研究 報告会	■ 卒業研究発表会、 学位授与式	
指導教員による指導													
修了後	■ 同窓会(マネジメント研究会)への参加 ■ 科目等履修制度の活用												
平日は小倉キャンパスにて夜間(18:30~90分×2コマ)に授業、土曜日は北方キャンパスにて昼間に授業 最長4年間で修了する長期履修制度あり⇒18ページ													

私のビジネススクールライフ



丸井 宏晃さん
(15期生／2022年度修了)

現職 株式会社三井ハイテック
モーターコア事業本部
モーターコア営業統括部 海外営業部長

企業経営に必要な 体系的知識の習得と知的挑戦

幸いにも、所属企業からK²BS派遣候補者として選定いただき、即座に入学を決意しました。かねてよりビジネススクールでの学び直しを希望していたことや、マーケティングや経営戦略の体系的な修得を望んでいました。

履修科目の選択にあたっては、不得手な財務領域やマーケティングや経営戦略に関わる科目を重視するとともに、アントレプレナーシップやイノベーション戦略など、企業内創造力を養う科目も履修しました。現職の市場環境に対して、やや保守的・安定重視の自らの性格傾向や、創造的思考に課題感があり、K²BSにおいては、自らのビジネス上の固定観念や不得意領域を打ち壊すことを常に意識し、日々の講義や課題に取り組みました。自らの殻を破る契機として、MBAは貴重な経験となるかと思います。

プロジェクト研究では、所属企業が国際競争力を得るために必要な戦略や組織構築はどのようなものかという観点で、現代におけるB2B製造企業の海外展開をテーマとしました。各履修科目で学んだ経営戦略やマーケティングのフレームワーク、財務分析の手法を駆使し、あるべき経営戦略を模索しました。卒業後は本研究で提起した組織機能を実現していくことが新たな目標です。

K²BSを通じて、多様な業種の学友と関係構築でき、様々な知見や思考方法を吸収できました。心身ともに高負荷で挑戦的な2年間でしたが、今後の仕事人生における宝となりました。

履修例〈15期生 丸井さん〉

月曜日～土曜日 毎：毎週1時限で開講 隔：隔週2時限連続で開講 ★印は必修

年次		1年次				2年次				
曜日	時限	1学期		2学期		1学期		2学期		
		A週	B週	A週	B週	A週	B週	A週	B週	
月	6・7									
火	6・7					隔	中国ビジネス	隔	フィナンシャル・インベストメント	
水	6・7	隔	ビジネスエコノミクス	隔	International Business Skill	隔	アントレプレナーシップ	隔	ビジネス英語	
木	6・7	隔	データサイエンス	★隔	経営戦略	★隔	ファイナンス	★隔	経営組織	
金	6・7	★隔	マーケティング	★隔	アカウンティング			隔	人材マネジメント	
土	2	★毎	MBAオリエンテーション		★毎	グループ・プロジェクト				
	3・4			隔	イノベーション戦略	隔	マーケティング戦略			
	4・5							隔	プロジェクト・ファシリテーション	
	5・6									
	6							★毎	プロジェクト研究I	★毎

集中講義

年次	2年次	
	実践リーダーシップ	チーム・マネジメント

■ ベーシック科目／10単位 ■ アドバンスト科目／16単位
 ■ エグゼクティブ科目／12単位 ■ プロジェクト科目／8単位 合計 46単位取得



野口 莉加さん
(15期生／2022年度修了)

現職 アールウェディング株式会社
代表取締役

自分の可能性が広がることを体感

コロナ禍に直面し、新しいビジネスの柱をもう一つ構築したいとの思いが今まで以上に高まりました。また、これまでの感覚的な経営から理論的な知識を備えた経営に移行する基盤作りをしようという気持ちで入学を決意したものです。

履修に関しては、常々海外市場へと一歩を踏み出す事を検討していた事もあり、中国ビジネス・アジア貿易実務・中華圏の経営などを集中的に選択しました。また、人材・チームワーク・組織マネジメント系の履修も選択した事で、自社にどのような組織の改革が必要なのか?等、体系的に物事を考えることが出来るようになり大きな財産となりました。

プロジェクト研究では、新ビジネスモデルを構築するという目的を意識し、「東アジア市場向け高付加価値化ビジネスモデルの構築」をテーマに掲げました。履修したマーケティング等のフレームワーク分析を取入れ仮説を立てビジネスモデルを構築し、修論をまとめながらも同時進行で新ビジネスを走らせる。このような形式で進められたことはまさにMBAで学ぶ醍醐味であったと感じています。

K²BSIに入学して、同じ目標や覚悟を持った仲間と切磋琢磨する事は、成果につながるだけでなく自分の可能性が広がることを体感し、また多くの刺激を受けた学生生活でありました。集中して学ぶ環境があり真剣に学ぶからこそ、人生の分岐点になるような大きなインパクトが得られた2年間であったと思います。

履修例〈15期生 野口さん〉

月曜日～土曜日 毎：毎週1時限で開講 隔：隔週2時限連続で開講 ★印は必修

年次		1年次				2年次							
曜日	時限	1学期		2学期		1学期		2学期					
		A週	B週	A週	B週	A週	B週	A週	B週				
月	6・7			隔	ソーシャル ビジネス								
火	6・7	隔	知識 マネジメント			隔	中国ビジネス	隔	アジア貿易実務	隔	中華圏の経営		
水	6・7				隔	アントレ プレナーシップ							
木	6・7		★ 隔	経営戦略	★ 隔	ファイナンス	★ 隔	経営組織		隔	消費者行動		
金	6・7	★ 隔	マーケティング	★ 隔	アカウンティング		隔	地域づくり戦略	隔	人材 マネジメント	隔	地域産業と 事業創造	
土	2												
	3・4	★ 毎	MBAオリエンテーション		★ 毎	グループ・プロジェクト							
	4・5		隔	イノベーション 戦略		隔	サービスと ホスピタリティ		隔	プロジェクト・ ファシリテーション			
	5・6												
	6								★ 毎	プロジェクト研究I		★ 毎	プロジェクト研究II

集中講義

年次	2年次		
	実践リーダーシップ	チーム・マネジメント	海外研修

■ ベーシック科目／10単位
 ■ アドバンスト科目／16単位
 ■ エグゼクティブ科目／16単位
 ■ プロジェクト科目／8単位
 合計 50単位取得

在校生メッセージ

実践的かつ理論的なフレームワークを学ぶ



福田 大地さん
(16期生／2022年度入学)

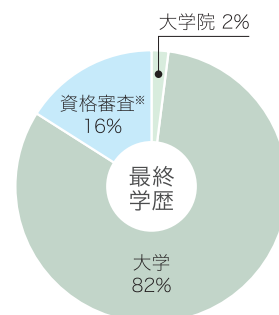
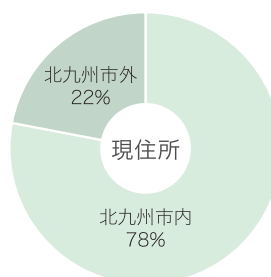
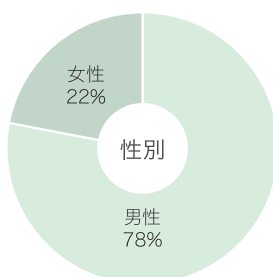
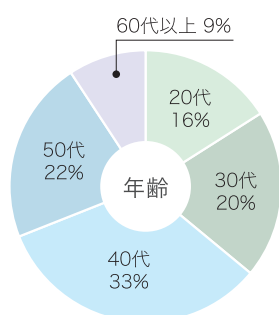
現職 株式会社キフネ

私が勤めている株式会社キフネは、北九州市若松エリアを中心に工業用高圧ガスの製造・販売及び民生用プロパンガスの販売を行っています。私は2年前に後継者として事業を引き継ぐために当社へ戻ってきました。MBAには昔から興味があり、後継者として自社課題を解決する為の思考力や判断力、広い視野を身につけたいと考え、K²BSへの入学を決意しました。K²BS入学にあたり、仕事と学業を両立できるか大変不安でしたが、職場や家族の協力を得ながら学業に集中する事ができています。

K²BSでは多種多様なバックグラウンドを持つ先生方から、実践的かつ理論的なフレームワークを学ぶ事ができます。とくに、私は営業畑一筋であった為、アカウンティングや財務諸表分析の講義には苦戦しましたが、新しい視点を得る事ができました。入学してからは、仕事の様々な局面で論理的思考が定着しつつあることを実感しています。仕事柄、経営層の方々とお話する機会が多いですが、経営に関する専門的な話題が豊富となり、客先や関係者から信頼される事が増えました。私のような後継者にとって、K²BSは事業継承の為の準備期間として最適な機会であると感じています。

K²BSは、年齢や職業が違うメンバーが共に学び、共に考え、共に喜び合える魅力的な環境です。北九州を離れていた私にとってかけがえのない出会いであり、私の財産となっています。

在校生データ [2023年度] n=45人



※大学卒業以外の方は出願前に入学資格審査を行います。

自分に足りない部分を見つめ直す



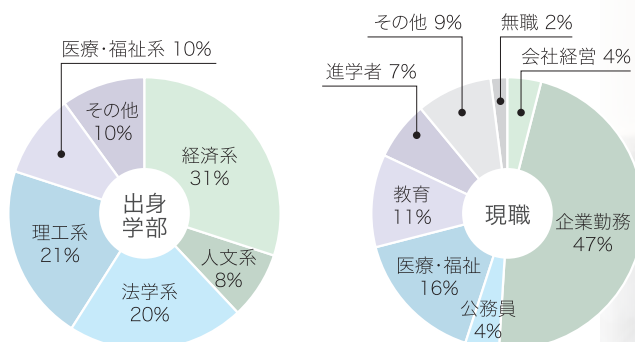
松本 真美さん
(16期生／2022年度入学)

現職 九州旅客鉄道株式会社

K²BS入学当時は、在来線の運転士として特急列車や普通列車、観光列車の「36ぱらす3」等の運転業務を行っていました。新型コロナウイルスの影響で、鉄道を取り巻く環境が厳しく自社の未来に危機意識があったことや私自身これまで現場でしか働いたことがなかったため、今後は本社の企画計画部門で働きたいという目標があり、「K²BSで経営学を体系的に学びたい!」と思い入学を決意しました。

K²BSでは、経営戦略やマーケティング、地域づくり等様々な科目があり高度な専門知識を幅広く学ぶことができます。フィールドワークの授業もあり、実際に現地を訪れることで地域の魅力やまちづくりを体感でき、仲間とキャンパス以外の場所で過ごす時間は楽しく貴重な経験となっています。そして、何より普段の会社生活では到底出会えない、多様なバックグラウンドを持つ目標意識の高い仲間たちや先生方との白熱したディスカッションでは、多くの気づきがあり、自分に足りない部分を見つめ直すことができます。

入学前は、働きながら学ぶことに不安がありましたが、K²BSに入学して本当によかったと実感しています。現在、本社の企画計画部門の営業部で働いており、実際に授業で学んだ理論やフレームワークを使って、自社の今後の課題や戦略を考えることができます。今後も、K²BSでの学びを深め、学んだことを会社や地域に広く還元できるように様々なことにチャレンジしていきたいです。



■ 修了生メッセージ



社会の変化や課題を 見極める視点や指針を獲得する

米本 真さん
(15期生／2022年度修了)

現職 上野株式会社(上野精機グループ)

Q1 K²BSに入った きっかけや動機

いわゆるセカンドキャリアとして、前職の金融機関から水巻町にある半導体製造装置メーカーにお世話になることになりました。これまでの環境や業務とは全く異なる企業において、微力でも役に立ちたいと考えていた時、「K²BS」の募集ポスターを西小倉の駅で見かけ、直ぐに志願することにしました。公立大学であったことで、授業料が相対的に安い点も魅力だったかもしれません(笑)。

Q2 K²BSで印象に残っている 授業or先生

マネジメントスクールといえば、ハーバードBSにしろ、慶応BSにしろ、ケースを基にした経営戦略論でしょうか。実際に企業で起きたことを題材に、理論やフレームワークを用いて、その企業の特徴や優位性を整理し、さらに独自の視点で特異性を見出していくことは非常に楽しい知的作業です。加えて、担当の高橋准教授は、学生に対し教えるというよりは、ともに考えるとのスタンスで、時には学生との議論で熱くなる姿も、「白熱教室」的な雰囲気の魅力でした。

Q3 MBAホルダーになって 何が変わったか？

変化が激しく不確実性が高まっているとされる現代において、会社や社会で起きていることを理解する指針を持たたのではないかと思います。目先のことに惑わされずに、デシジョンすることができているのではないかと感じています。

Q4 修了後の同期や先輩・ 後輩(教員)との関係・交流

地縁のない北九州地区にやってきた私にとっては、「K²BS」の多彩な同期や先輩たちと知己得たことは、この地における強力なネットワークを獲得したようで、非常に大きな財産となっています。この交流から、この地域における歴史や文化的背景からくるポテンシャルの高さに気づかされ、新たな魅力を感じているところです。

Q5 志願者へのメッセージ

今、わが国では「リカレント教育」の必要性が声高に叫ばれています。しかし、その内容を見てみると、IoTやAIなどの技術革新に対応する目先の技術の取得などが強調されている面があります。しかし、変化の激しい時代にあって、近視眼的な技術やノウハウを学んでも、直ぐに廃れてしまう可能性すらあります。「K²BS」での学びは、そのような近視眼的なものではなく、社会の変化や課題を見極める視点や指針を獲得することができる学びです。皆さんも、変化が激しく不確実性が高まっている今こそ、今後の自分の軸となる学びをしてみませんか。

プロジェクト研究報告書

各研究の
要旨は
こちらから

MBA取得のために修士論文に対応した研究報告書を提出し、審査に合格することが求められます。研究報告書は、学問的な立場からの論文に限らず、職場や業界の問題に関する調査分析、将来のビジネス・プランなど多彩な研究が可能です。論文作成を通して、問題を発見・分析し、更には解決策を考えるまでのプロセスをじっくりと体験し、思考能力や分析能力、文章力、プレゼンテーション力を高めます。



2022年度プロジェクト研究題目一覧

大西 克昌

ペット葬儀開拓事業に関する構築
— 動物霊園管理の経営戦略構築を目指して —

高橋 暁彦

製造業企業の組織文化やリーダーシップが
従業員のエンゲージメントと革新的行動に与える影響について

荒木 俊介

医療的ケア児の地域におけるlong term careの
マネジメントの在り方についての研究

田島 浩司

高校生の自己効力感と自己肯定感に関する考察
— 福岡県立A高等学校を事例に —

石塚 久晃

機関投資家とサステナブルファイナンス

富田 誠二

中間市におけるイベントを通じた
シビックプライド醸成に資する実践研究

石丸 秀樹

火災リスク削減から生み出すまちづくりプラン
— 「地域づくりのダイヤモンド・モデル」の活用 —

成田 隆任

医療機器取引における課題とその解決のための
サポートビジネスモデルの検討

尹 俏俏

中国化粧品市場における販売戦略考察
— 資生堂とロレアル社の進出戦略比較から —

藤田 和平

廃棄物処理プラットフォームビジネスの検討
— A社の新たな成長戦略 —

内田 満

我が国における地域スポーツの変遷と
必要とされるマネジメントの実状とその展望
— 総合型地域スポーツクラブに見る日本のスポーツ政策 —

細川 忠広

産業廃棄物業界のDX化

王 強

DXを支えるデジタル先端技術企業の企業価値評価
— 新規株式公開に着目して —

丸井 宏晃

日系B2B製造企業の今後海外展開についての考察
— ダイナミック・ケイパビリティ論と事例研究 —

野口 莉加・河村 公一

東アジア市場向け高付加価値化ビジネスモデルの構築
— 越境EC・ビジネス連携の観点から —

宗雪 慧

地方銀行における働きがいについて
— エンゲージメント・ワークモチベーションに対する分析 —

耿 贈朝

中国の地域間経済格差と是正策に関する考察

村田 大輔

取引先と共に発展する地域金融機関のビジネスモデルの探求
— 『中小企業向け行員派遣ビジネス』の可能性 —

耿 兆冲

中国における日系外食企業のブランド戦略に関する研究
— ぶぐ料理店玄品の事例から —

山口 はるな

心理的完全性が看護学生に与える影響
— 看護学生が主体的な臨地実習を行うための提案 —

後藤 悠希

LIFE加算の未来を見据えた科学的介護とマネジメント

山下 廉太

パラアスリートの心理・社会的課題と今後についての検討
— パラアスリート雇用がもたらす影響 —

高野 愛美

企業における接待の本質
— コロナ禍がもたらしたニューノーマル時代の接待の行方 —

米本 真

ファミリービジネスにおける親族外継承についての考察

修了生ネットワーク

K²BSで学ぶことで、K²BSの380名を超える修了生との強力なネットワークも活用できます。既に、同級生同士や先輩・後輩によるコラボレーションも誕生しています。また、北九州市立大学自体との関係性も築くことができます。

マネジメント研究会(同窓会)

修了生ネットワークの中核となるのは、マネジメント研究会です。マネジメント研究会は、K²BSの修了生や教員を会員とした組織です。単なる同窓会組織ではなく、修了後も共に学ぶことを目的とした組織です。よって、新入生歓迎会などに加えて、自主的な勉強会やセミナーなど様々な交流の場を主催・共催しています。



修了生セミナー(2022年8月)

柳瀬 隆志氏 (K²BS 元特任教授)

現職 株式会社グッデイ 代表取締役社長



フォローアップセミナー(2022年12月)

長濱 弥守郎氏 (13期生)

現職 特別養護老人ホームあだち園 施設長



MBAオリエンテーション(2022年7月)

吉水 請子氏 (2期生)

現職 極東ファディ株式会社 取締役

マネジメント研究会代表メッセージ



田中 裕弓さん

(9期生/2017年度修了)

マネジメント研究会は、マネジメント研究科を修了した者が集う同窓会組織です。単なる同窓会ではなく、大学と連携し、卒業後も集まり継続して学びあう場です。人生100年時代を迎える中、先行きが不透明で将来の予測が困難なVUCAの時代といわれる今日、急速な技術革新や市場変化に対応するため、生涯にわたって教育と就労のサイクルを繰り返すリカレント教育の必要性が増しています。当会は、MBA修了後も大学と連携し、皆さんの学び直しの機会を定期的に提供しています。

MBAの醍醐味は、学ぶだけでなく、教授や地元の各分野で熱意ある人と強い人脈が構築できることです。同期との繋がりがヨコの繋がりであれば、当会は過去の修了生とのタテの繋がりを創る場としての役割を担っています。マネジメント研究科は、これまでに387名の修了生を輩出してきました。地元の各界で活躍されている先輩との出会いが、皆さまに様々な気づきを与えていることは言うまでもありません。

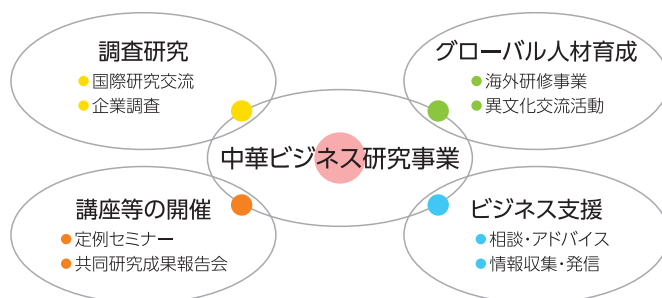
幅広い修了生が集う当会で、皆さまと出会い、お互いが貴重な人脈として付き合えることができる日をマネジメント研究会一同、心より楽しみにしております。

国際交流

中華圏地域を中心とした東アジア地域のビジネススクールや研究機関との教育研究交流を進め、グローバルビジネス・リーダーの育成に力を入れています。

■中華ビジネス研究センター

北九州市立大学におけるこれまでの中国語教育の伝統および中華ビジネス研究の蓄積を活かした調査研究、さらには地域企業や行政機関等におけるグローバル人材の育成などを推進することにより地域社会の課題改善に寄与することを目的に、2014年8月に「中華ビジネス研究センター」を設置しました。



中華ビジネス研究センターの活動報告については、
ホームページ
<http://ccbs.kitakyu-u.ac.jp/>
をご参照ください。



■主要交流先

- ①シュタインバイス大学(ドイツ)との共同研修
- ②中国大連理工大学管理学院との学術交流MOU
- ③中国人民大学中国経済改革発展研究院との学術交流協定
- ④遼寧大学商学院(瀋陽)との学術交流協定
- ⑤遼寧大学新華国際商学院(瀋陽)との学術交流協定
- ⑥東北大学工商管理学院(瀋陽)との学術交流協定
- ⑦香港大学華人経営研究センターとの学術交流MOU
- ⑧マカオ大学工商管理学院との学術交流MOU
- ⑨マカオ大学アジア太平洋経済経営研究所との学術交流MOU
- ⑩中評シンクタンク・ファンデーション(香港)との学術交流MOU
- ⑪香港中文大学国際ビジネス研究センターとの学術交流MOU
- ⑫中国人民大学中国民営企業研究センターとの学術交流協定
- ⑬山東大学管理学院(済南)との学術交流MOU
- ⑭南洋理工大中華言語文化研究センター(シンガポール)との学術交流MOU
- ⑮中山大学管理学院(広州)との学術交流MOU
- ⑯中山大学同族企業センター(広州)との学術交流MOU
- ⑰国立中山大学管理学院(高雄)との学術交流MOU
- ⑱マヒドン大学中国・アジアグローバル化研究センター(タイ王国)との学術交流MOU
- ⑲国立中興大学管理学院(台中)及び附属の磐石産学研究中心との学術交流MOU

■講座等の開催

新春特別セミナー2023(第七回「東亜経済論壇」)
(Teamsウェビナー、2023年3月15日※)

- **テーマ**: 東アジア企業の持続発展と国際戦略的提携
- **代表挨拶**: 松尾 太加志 学長

第一セッション 域内企業間の戦略的提携

- **モデレーター**
中国人民大学中国民営企業研究センター教授 張 培麗
- **パネリスト**
シンガポール南洋理工大学公共管理大学院長 LIU HONG
大阪経済大学経済学部教授 福本 智之
中華経済研究院副院長兼国際経済研究所長 陳 信宏
中興大学管理学院副院長兼磐石産学研究中心長 林 谷合
中国人民大学中国民営企業研究センター教授 張 培麗

第二セッション 企業の長寿促進要因の探求

- **モデレーター**
中華ビジネス研究センター特任研究員 彭 立君
- **パネリスト**
中央民族大学興辺富民研究院院長・
兼中国人民大学中国民営企業研究センター長 黃 泰岩
義守大學管理学院教授 鍾 喜梅
中国評論通信社副社長 王 平
港日ビジネス研究センター代表 古田 茂美
北九州市立大学中華ビジネス研究センター長 王 効平
同中華ビジネス研究センター特任研究員 彭 立君

■海外研修

海外協定先のビジネススクールの支援を得て、海外企業などの現場体験が可能な実践的教育プログラム(選択科目)として、例年夏季集中講義期間中に「海外研修」を開講しています。過去計10期実施。

①開講時期: 9月初旬。 ②訪問先: 中国大陸、香港・マカオ、台湾からなる中華地域、ASEAN地域。 ③参加人数: 約20名。 ④活動内容: 交流先ビジネススクールから提供される特別講義の受講、現地企業・外資系企業の視察訪問、現地MBA・EMBA院生(経営管理職)とのパネルディスカッションなど。

■海外ビジネススクールの来日研修交流支援事業

本学と交流協定関係にある海外ビジネススクールの来日研修事業をサポート。2018年度、国立中山大学(高雄)管理学院EMBAコース、2019年度キングモンクット工科大学(タイ王国)ビジネススクールの訪日研修団、2023年度清華大学大学院工程管理研究科を受け入れました。本研究科専任教員、特任教員による特別講義提供、本市における企業視察、本研究科院生・修了生達との親睦交流イベント等を企画・実施しました。



鴻海グループ企業取締役黄朝熾氏による特別講義:
『シャープ買収と日台企業提携の今後』(2017年台北)



清華大学大学院工程管理研究科北九州医療福祉視察団
北九州市視察訪問(2023年7月)

教員紹介 [2023年4月1日現在 50音順]



教授
王 効平
Wang Xiao-ping
国際経営
中華圏の経営
海外研修
プロジェクト研究科目

専門分野 国際経営、比較経営、アジア経営論

主な経歴・業績 1990年九州大学大学院経済学研究科博士後期課程修了、経済学博士号取得。財団法人国際東アジア研究センター専任研究員、北九州市立大学経済学部准教授を経て、2000年教授。2007年よりマネジメント研究科教授、2011年4月-2017年3月同研究科長。2014年8月中華ビジネス研究センター長、現在に至る。大学院社会システム研究科博士後期課程兼任教授。1995年9月-1996年8月米国カリフォルニア大学パークレー校訪問研究員。主要研究業績：単著『華人系資本の企業経営』（日本経済評論社）、共著『日中韓企業の経営比較』（税務経理協会）、編著『日中長寿企業の経営比較』（中央経済社）など。特に東アジア域内における比較経営と多国籍企業の経営現地化に関する調査研究に取り組んでいる。



教授／実務家教員
城戸 宏史
Hiroshi Kido
地域づくり戦略
実践リーダーシップ
プロジェクト研究科目

専門分野 地域事業創造、地域産業分析、地域経済、公共経営

主な経歴・業績 九州大学文学部を卒業後、九州経済調査協会で研究員として、16年間地域振興に係る調査研究やプロジェクトに従事。半導体産業や自動車産業、環境産業などの産業振興策に係る調査研究や市町村のマスタープランづくりなどを経験。九州経済調査協会調査研究部次長等を経て、2005年に北九州市立大学経済学部助教授に就任。



講師
日下 勇歩
Yuhō Kusaka
アカウンティング
財務諸表分析
プロジェクト研究科目

専門分野 財務会計、財務諸表監査

主な経歴・業績 2016年3月に法政大学経営学部を卒業。2018年3月に一橋大学大学院商学研究科修士課程を修了。2022年3月に同大学院の経営管理研究科博士後期課程を修了。2022年4月に北九州市立大学へ着任。



准教授
高橋 秀直
Hidenao Takahashi
経営戦略
ファミリービジネス
マーケティング戦略
プロジェクト研究科目

専門分野 経営戦略論、技術経営論、産業組織論

主な経歴・業績 2009年公益財団法人医療科学研究所研究員。2011年一橋大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得退学。2011年北九州市立大学大学院マネジメント研究科専任講師。2012年4月より准教授。



教授／実務家教員
武田 寛
Hiroshi Takeda
ファイナンス
フィナンシャル・インベストメント
プロジェクト研究科目

専門分野 ファイナンス、国際経済、経済経営理論

主な経歴・業績 北九州市生まれ。東京大学工学部卒業後、日本長期信用銀行（長銀、現：新生銀行）に入行。ハーバード大学大学院ケネディスクールMPA（公共政策学修士）、ブラウン大学経済学修士取得後、ボストン大学大学院経済学博士課程を経て、北九州市立大学に着任。主要業績：“Management, accounting and philosophy: the development of management accounting at Kyocera, 1959-2013”, *Accounting, Auditing & Accountability Journal*, 27(2), 2014年等。



教授
鳥取部 真己
Maki Tottoribe
人材マネジメント
経営組織
プロジェクト研究科目

専門分野 人材マネジメント論、組織行動論、人材育成

主な経歴・業績 1991年慶應義塾大学卒業、三菱電機株式会社にて総務・人事業務に従事した後、1999年慶應義塾大学経営管理研究科修士課程へ進学しMBAを取得。2002年一橋大学大学院商学研究科博士後期課程へ進学、博士（商学）取得。名古屋商科大学や九州産業大学での勤務を経て、2012年北九州市立大学へ着任。



教授
平田 エマ
Ema Hirata
地域産業と事業創造
パブリックマネジメント
プロジェクト研究科目

専門分野 地域産業、地域経済、地域政策

主な経歴・業績 西南学院大学経済学専攻修士課程修了後、1997年に（財）（現：公財）九州経済調査協会に入社後、地域経済に係る調査研究に従事し、自動車産業や半導体産業といった製造業、港湾や空港、交通などの産業振興にかかわる調査研究やプロジェクトに携わる。2015年企画部次長、2018年事業開発部次長を歴任。2023年4月に北九州市立大学に着任。



教授
松田 憲
Ken Matsuda
マーケティング
消費者行動
プロジェクト研究科目

専門分野 マーケティング、消費行動学、認知心理学、認知科学

主な経歴・業績 2005年京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。博士（教育学）。2005年より京都大学大学院教育学研究科研究員（学術研究奨励）。2007年より山口大学大学院理工学研究科講師。同准教授、同国際総合科学部准教授を経て、2016年4月より北九州市立大学大学院マネジメント研究科教授。



教授
松永 裕己
Hiromi Matsunaga
環境ビジネス
ソーシャルビジネス
プロジェクト研究科目

専門分野 環境ビジネス、ソーシャルビジネス、経済地理学

主な経歴・業績 1998年九州大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学。98年北九州市立大学産業社会研究所（現、地域戦略研究所）講師、准教授を経て、現職。行政の各種委員やNPO法人、一般社団法人の理事なども務める。2015年にはマネジメント研究科修了生と一般社団法人「ソシオファンズ北九州」を立ち上げ、ソーシャルビジネスの活動支援も行っている。



特任教授
岡林 千夫
Kazuo Okabayashi
イノベーション戦略
プロジェクト研究科目

所属等 前 株式会社安川電機 安川電機みらい館 館長

専門分野 産業用ロボットの技術全般、マーケティング、新規事業開拓

主な経歴・業績 1957年高知県生まれ。1981年山口大学工学部電気工学科卒業後、株式会社安川電機に入社し、産業用ロボットの制御ソフトウェア開発に従事。1980年代から2000年代にかけての延べ16年間のドイツ（3年間）、スウェーデン（13年間）駐在を経験しながら、産業用ロボットの開発、マーケティング、経営に携わる。2015年、安川電機創立100周年を記念してオープンしたロボット村の安川電機みらい館館長に就任。併せて副都心黒崎開発推進会議副会長として地域づくりにも取り組んでいる。



特任教授
古賀 桃子
Momoko Koga
NPOマネジメント
プロジェクト研究科目

現職 特定非営利活動法人ふくおかNPOセンター 代表

専門分野 非営利組織経営、課題解決型事業構築、協働・共創

主な経歴・業績 1975年福岡市生。学生時分まちづくりNPOを経て、2002年に現組織を設立。[年の根から、社会を描く。]を合言葉に、企業・行政・公民館・社会福祉協議会・児童館等の伴走支援に注力。近年は、防災や災害時の後方支援にも取り組んでいる。また、「泡盛新聞」九州局長・「泡盛検定協会」会長として、沖縄県の産業振興支援にも注力中。



特任教授
幕 亮二
Ryoji Maku
地域政策
プロジェクト研究科目

現職 株式会社MK総合研究所 代表取締役所長

専門分野 地域政策、交通・物流政策、PFI/PPP

主な経歴・業績 1991年早稲田大学大学院経済学研究科修了。同年㈱三菱総合研究所入社、国や自治体の政策や事業計画策定、事前・事後評価業務に従事。集客・交流コンサルティングチームリーダー、空港民営化事業チームリーダーを経て、郷里の九州にUターンし2018年独立起業。九州各地をフィールドに、幅広い官民連携事業の推進を支援している。



特任教授

安部 壮一

Soichi Abe

中国ビジネス

所属等 前TOTO株式会社 取締役専務執行役員
(2023年7月1日現在)

専門分野 国際ビジネス、中国ビジネス

主な経歴・業績 1985年東京外国語大学中国語学科卒業、同年TOTO(株)入社。入社以来海外事業に携わる。2004年中国事業部長兼TOTO(中国)社長、2014年取締役常務執行役員 国際事業本部長、2017年取締役専務執行役員、2021年顧問を経て2023年退任。のべ20年間の駐在経験有する中国では、'80年代の市場開拓期からTOTOの海外中核事業に発展するまで一貫してその事業運営に携わってきた。



特任教授

桑野 和泉

Izumi Kuwano

サービスとホスピタリティ

現 職 株式会社玉の湯 代表取締役社長

専門分野 観光 地域づくり

主な経歴・業績 1964年大分県湯布院町(現由布市)生まれ。家業の宿「由布院玉の湯」の専務取締役を経て、2003年10月より代表取締役社長。町づくりなどの市民グループの代表、世話人も務める。初代ツーリズムおおいた会会長を務めた。現在、一般社団法人由布市まちづくり観光局代表理事。また九州旅客鉄道株式会社取締役(非常勤)を務める。



特任教授

林田 暢明

Nobuaki Hayashida

プロジェクト・ファシリテーション

現 職 総務省地域力創造アドバイザー、
合同会社TAO 代表取締役

専門分野 ファシリテーションを活用したプロジェクト推進

主な経歴・業績 日本銀行、民間シンクタンクを経て2005年、地域活性化を目的としたカフェTAOを福岡市に設立。これまでに総務省地域力創造アドバイザー、福島県南相馬市教育復興 基本計画策定のための有識者会議副会長などを歴任。カドカワが設立したネットの通信制高校[N高等学校]の設立にも関わるなど教育分野、地域活性化分野において全国各地でコンサルティングを行っている。北九州市出身。



特任教授

八木田 一世

Issei Yagita

アントレプレナーシップ

現 職 マーケティングデザインスタジオ SEE℃ 代表

専門分野 デザイン思考／アート思考、マーケティング、
ブランディング

主な経歴・業績 高校卒業後1996年に渡米。2000年コンコーディア大学ポートランド校卒業(Sales and Marketing)、2002年に帰国後、20代で起業。マーケティングを主体としたサイエンス的なアプローチと、コミュニケーションデザインを主体としたアートのなアプローチの両方で企業コンサルティング、商品開発、まちづくり、創業支援などに携わる。2018年、2019年に福岡デザインアワード受賞。SCBインベーションアカデミー講師。九州アートディレクターズクラブ ファシリテーター。



特任教授

國本 政瑞冲

Masamizu Kunimoto

医療マネジメント

現 職 國本衛生コンサルタント事務所 代表

専門分野 医療マネジメント、健康経営、産業衛生

主な経歴・業績 2003年産業医科大学医学部卒業。一般臨床医を経て、大手企業の専属産業医として従事。2018年より主に中小企業を対象とした健康管理マネジメントを専門とする事務所を開設し、現在に至る。日本医師会認定産業医、労働衛生コンサルタント、経営学修士(K'BS12期生)。



特任教授

瀬戸 大樹

Hiroki Seto

M&Aと戦略的提携

現 職 株式会社日本M&Aセンター 福岡支店 課長

専門分野 中小企業を対象としたM&A、事業承継

主な経歴・業績 2001年早稲田大学教育学部卒、株式会社リクルートに入社。HRカンパニーにて企業の採用課題解決の提案、大学での講演活動や就職指導を通して学生の就職力向上をサポート。2011年株式会社日本M&Aセンター入社。入社以来、主に譲受企業担当として50件を超える企業のM&Aを支援。2016年の福岡支店開設に伴い福岡に常駐し九州・沖縄エリアを担当。



特任教授

舞田 靖子

Yasuko Maita

経営倫理とビジネス法務

現 職 舞田法律事務所 代表

専門分野 一般企業法務、M&A、組織再編、
倒産/事業再生、争訟

主な経歴・業績 2002年弁護士登録、西村あさひ法律事務所(東京)入所。2010年プライズウォーターハウスパーパス株式会社(出向)、2012年西村あさひ法律事務所に復帰後、2013年7月より西村あさひ法律事務所福岡事務所開設に伴い福岡に常駐。2022年6月に舞田法律事務所開設。企業のリーガルニーズに対応し、M&A、組織再編、事業再生のほか、争訟、労務、知的財産、ファイナンス、海外取引等、多種多様な企業法務に携わる。



特任教授

力武 知嗣

Tomotsugu Rikitake

モノづくり競争力の強化

現 職 力武デザイン事務所 代表
九州大学客員教授

専門分野 研究開発、工場運営、半導体、自動車

主な経歴・業績 1984年マツダに入社。レース用エンジン制御システムを開発し、世界選手権(ルマン24時間 レース)で日本車初優勝に導く。半導体ベンチャー会社を経て、ソニーにて画像処理半導体開発。その後、九州大学特任教授に就任。文科省等国家プロジェクトのマネジメント業務、委員を歴任。特許70件。2014年に力武デザイン事務所を設立し、中小企業の競争力強化をサポートしている。



特任教授

桑園 英俊

Hidetoshi Kuwazono

福祉マネジメント

現 職 社会福祉法人 桑の実会 理事長
NPO法人北九州小規模連 理事長

専門分野 障害福祉事業マネジメント、発達障害者支援

主な経歴・業績 1985年長崎大学教育学部卒業後、北九州市立特別支援学校に17年間勤務。勤務の傍ら1997年に障害者共同作業所を開所。2002年に社会福祉法人認可を得て退職し経営にあたる。主に発達障害特性に応じたマネジメントを行う。4年にNPO法人北九州小規模連(会員市内33事業所)を立ち上げ、事業所ネットワークを構築。現在理事長を兼務。



特任教授

原田 聡

Satoru Harada

サプライチェーン マネジメント

現 職 トヨタ自動車九州株式会社 コーポレート本部長

専門分野 生産管理、調達・物流マネジメント

主な経歴・業績 1986年キャノン株式会社入社を経て、1992年よりトヨタ自動車九州に勤務。新型車の立上げ、車両ユニットの内外製等の生産企画を担当し2013年より「調達物流改革」に取り組み、船から陸へのモーダルシフトやミルクランの導入を実施。現在は調達担当として域内調達の拡大やBCP時のサプライチェーン改善を推進中。日本ロジスティクスシステム協会会員。



特任教授

増田 正美

Masami Masuda

アジア貿易実務

現 職

株式会社エーベック貿易
代表取締役社長、
中国合弁企業 副理事長

専門分野 日中経済貿易、貿易ソリューション、
中国語翻訳・通訳(各高度専門分野)

主な経歴・業績 1976年北九州市立大学外国語学部中国学科卒業。同年医薬品総合商社入社後貿易従事。1970年代後半より約10年間に渡る北京駐在業務及び中国国内行政・数多くの企業・研究機関との貿易と実務を展開。1997年株式会社エーベック貿易設立。2000年中国杭州に合弁企業・工場設立。43年間数多くの最先端医療技術供与に係る病院・医療業界・食品業界、鉱工業業界、農業関連業界等の中国経済近代化全般に渡る経済貢献を行いつつ、中国以外のオーストラリア、ニュージーランド、インド、ミャンマー、フランス等各国との貿易経済取引に従事、現在に至る。

■ 専任教員

■ 特任教員

■ 特任教員

学内兼任教員

学内兼任教員

学内兼任教員

学内兼任教員

学内兼任教員

学内兼任教員

学内兼任教員

学内兼任教員

学内兼任教員

学内兼任教員

学内兼任教員

学内兼任教員

学内兼任教員

学内兼任教員

学内兼任教員

学内兼任教員

学内兼任教員

学内兼任教員

学内兼任教員

非常勤講師

非常勤講師

非常勤講師

非常勤講師

非常勤講師

非常勤講師

非常勤講師

非常勤講師

非常勤講師

非常勤講師

非常勤講師

非常勤講師

非常勤講師

非常勤講師

非常勤講師

非常勤講師

非常勤講師

非常勤講師

■ 目的・入学者受入れ方針 [AP:アドミッション・ポリシー]

■ 教育目的

営利組織及び非営利組織が活動する各領域で、革新的な事業創造・組織変革を推進するために幅広い専門知識を吸収し、総合的な課題解決能力を養い、高い倫理観とグローバル的視野を持った、地域をリードする高度専門職業人の養成

■ 入学者受入れ方針

マネジメント研究科マネジメント専攻では、以下のような人を求めています。

- 学問体系に裏付けられた実践的なマネジメントを学び、地域、社会での実践を目指す高い意欲を持つ人
- マネジメントに関する実践的な問題意識をもって、ディスカッションに参画できる経験と見識を持つ人
- グローバル社会に通用する思考力、判断力、コミュニケーション力を持つことを希求する人

知識・技能

- マネジメントを学ぶために必要な基礎学力や幅広い教養、リーダーとしての経験を有している。
- 論文の執筆やディスカッションに必要な日本語能力を有している。

思考力・判断力・表現力等の能力

- マネジメントに関する諸問題について論理的に思考し、判断するための素養を持っている。
- マネジメントに関連する文章を読んで理解したり、自分の考えをまとめて他者に伝えたりするための言語読解能力・表現能力を身につけている。

主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- 異文化や異分野の人々との協働の中で自ら主体的に参画し、多様性を受け入れながら課題解決や価値創造を行う姿勢を有している。
- 経営や地域、社会における課題に対して高い意識を持ち、積極的に関わろうとする意欲を持っている。

■ 教育課程編成・実施方針 [CP:カリキュラム・ポリシー]

マネジメント研究科は、ビジネス分野だけでなくパブリック分野においても革新的な事業創造や組織変革等を担える専門職業人を養成することを目的としており、これに対応する教育課程を編成し、実施していく。

- 教育課程はベーシック科目(基礎科目)、アドバンスト科目(基本科目)、エグゼクティブ科目(専門・応用科目)、プロジェクト研究科目(実践科目)の4つの科目区分で構成する。
- 科目構成は、積み上げ方式によるステップアッププログラムである。すなわち、上記4科目区分を段階的・スパイラル的に履修する教育システムを採用する。

■ 修了・進級要件

科目区分による修了要件は、2年以上在学することかつ、ベーシック科目10単位、アドバンスト科目14単位以上、エグゼクティブ科目12単位以上、プロジェクト研究科目8単位の合計44単位以上の修得を必要とする。進級要件は、1年次においてベーシック科目8単位以上、アドバンスト科目6単位以上、プロジェクト研究科目4単位の合計18単位以上の修得を必要とする。

■ ベーシック科目(基礎科目)

「ベーシック科目」は、ビジネスとパブリックの双方の分野で必要なマネジメント能力育成のための科目を1年次に配置する。この段階でマネジメントの基礎的思考と会計・財務の基礎知識を学ぶ。

■ アドバンスト科目(基本科目)

「アドバンスト科目」は、ビジネスとパブリックにそれぞれ特有の課題に関する基本的な科目を1年次を中心に配置する。この段階では専門・応用分野への足掛かりとするために、各自の問題意識の醸成を目指す。

■ エグゼクティブ科目(専門・応用科目)

「エグゼクティブ科目」は、各自の課題・関心に応じた専門・応用科目として2年次中心に配置する。現場に精通した教員の下で、仕事において実践的に活用できる知識やノウハウの習得を目指す。ビジネス系、パブリック系を横断する科目群として、中華・国際ビジネス系とソーシャルビジネス系の科目群を設ける。これらの科目は北九州地域が歴史的に培ってきた独自の知的財産、強みなどを教育に活かすことを目的としている。

■ プロジェクト研究科目(実践科目)

「プロジェクト研究科目」は、これまでの履修で蓄積してきた知識や問題意識をベースに、演習形式で徹底した討議を通じて「気づき、考え、提案・実践する」というプロセスを遂行し、実践的課題解決能力を育成する。

- 1) 「MBAオリエンテーション」と「グループ・プロジェクト」は、コミュニケーション能力を養成し、研究方法を習得するため、1年次の必修科目とする。
- 2) 「プロジェクト研究I・II」は、2年間にわたる学習の最終的な成果物として研究レポートまたは論文を完成させる演習科目であるため、2年次に必修科目とする。

■ 学位授与方針 [DP:ディプロマ・ポリシー]

■ 高度な専門的知識・技能

- マネジメント理論に関する専門知識を修得している。それらの専門知識に基づいて、組織や地域、社会が直面する問題や課題について、十分な議論を行うことができる。

【理論知識】

- ビジネスやパブリックのマネジメントに関する実践的な知識を修得するとともに、それらを活用してグローバル化や多様な社会問題に対応するための専門知識を身につけている。【実践知識】

- マネジメントに関する定性的、定量的な分析能力、課題に対する観察能力や解決能力といった技能を修得している。

【分析解決技能】

- 職業人に不可欠な問題処理、財務や会計、語学能力といった実践的な技能を身につけている。【実務技能】
- 新たなニーズの探索、それを事業に結び付ける構想、連携やネットワークづくりといった新規事業に必要な技能を身につけている。【新規事業技能】

■ 高い問題解決能力と表現力

- マネジメントに関する問題や課題を抽出し、その本質的な特徴を捉え、それらに対する解決策を導き出し、的確に表現できる。【思考・判断・表現力】

■ 高い倫理観に基づいた自律的行動力

- 地域、社会に貢献するとともに、市民としての責任感と倫理観を身につけている。【倫理観】

- 企業経営や公共経営等に関する課題に高い見識を持ち、常に挑戦する姿勢や変革する力を持っている。

【経営変革態度】

- リーダーとして主体的に行動を起こし、地域の課題に積極的に取り組むことができる。【地域リーダー態度】

- 東アジア等の諸外国に対して関心や理解を持ち続け、国際社会の中で競争力を維持・強化するだけでなく協調的な態度がとれる。【国際協調態度】



2023年3月学位授与式

■ 入試について

■ 入試説明会日程

秋 期	2023年 8 月23日㊦ 19:00～20:30	冬 期	2023年11月22日㊦ 19:00～20:30
	2023年 8 月26日㊤ 13:30～15:00		2023年11月25日㊤ 13:30～15:00

■ 2024年度 入試概要

大学を卒業し、企業・官公庁等で満2年以上の実務経験を有する社会人を中心に30名募集します。
ただし、進学者についても若干名募集します。

選考方法	社会人	出願書類をもとにした書類審査(1次選考)と、面接試験(2次選考)
	進学者	出願書類をもとにした書類審査(1次選考)と、面接試験・筆記試験(2次選考)

大学卒業以外の方は出願前に入学資格審査を行います。詳しくは学生募集要項でご確認ください。
なお、学生募集要項の入手方法は以下のとおりです。

■ サイトからのダウンロードによる入手

北九州市立大学ビジネススクールホームページよりダウンロードしてください。

URL

<http://k2bs.kitakyu-u.ac.jp>



■ 郵送による入手

宛名を記入した返信用封筒(角形2号:A4サイズ、180円切手貼付)を同封し、請求する封筒の表に「マネジメント研究科募集要項請求」と朱書きして、下記までお送り下さい。
その他、入試に関することは下記連絡先にお問い合わせください。

送り先

〒802-8577 北九州市小倉南区北方四丁目2番1号
北九州市立大学 入試・研究支援課 入学試験係
TEL:093-964-4022
E-mail:nyushi2@kitakyu-u.ac.jp



■ 入学金・授業料・支援制度

■ 入学金・授業料

入学金と授業料の額は右図の通りです。

		金 額
入学金	市内居住者	282,000円
	上記以外居住者	423,000円
授業料 (年間)	第1期(4～9月)	267,900円
	第2期(10～3月)	267,900円

(注1) 現行の金額です。変更となる場合があります。

(注2) 市内居住者とは

(1) 本人、配偶者、2親等以内の親族が市民税納税者(または市民税非課税者)であり、かつ入学金納入の時まで引き続き北九州市内に住所を有する者。

(2) 北九州市内の事業所などに勤務または北九州市内に本店などを置く事業所に勤務する者。

■ 奨学金

人物、学業がともに優秀かつ健康であって、経済的理由のため修学が困難であると認められる者に対しては、選考の上、日本学生支援機構(旧・日本育英会)の奨学金が貸与される制度があります。

■ 北九州市立大学大学院マネジメント研究科 特待奨学生制度(2024年度)

対象者

大学院マネジメント研究科選考選抜における「選抜区分 ②大学などからの進学者」において入学を許可された者のうち、学業成績が特に優れ、かつ人物優秀であると認められる者。但し、本研究科入学の年(2024年)の3月に本学学部等(外国語学部、経済学部、文学部、法学部、地域創生学群及び国際環境工学部)を卒業した者に限る。

特待奨学生に関する申請は必要ありません。

大学側で該当する対象者を選考審査した上で、特別奨学生として認定された者に対して、2024年4月中に文書でお知らせします。

■ 長期履修制度

職業を有している等の理由によって、標準修業年限である2年間の修了が困難である場合、最長4年間で計画的に教育課程を履修し、修了することができる制度です。

授業料は、2年間分の授業料総額を、長期履修が認められた年数(3年または4年)の間、分割して納入することになります。

長期履修制度を利用して修学する場合は、申請の手続が必要です。

■ 教育訓練給付制度

K²BSは、専門実践教育訓練制度の指定講座です。北九州市立大学大学院マネジメント研究科への入学者で、一定の条件を満たす、雇用保険の一般被保険者(在職者)または一般被保険者であった方(離職者)のうち、①2年間で修了予定の方(長期履修希望者は対象外) ②「専門実践教育訓練給付金」の受給資格を有している方で所定の条件を満たす形で修了した場合、支払った入学金・授業料の一定の割合額がハローワークから支給されます。

専門実践教育訓練給付金の支給を希望する方は、受講開始1か月前までに、本人の住所を管轄するハローワークに申請手続きが必要です。

詳しくは、本人の住所を管轄するハローワークにご確認ください。

専門実践教育訓練での「教育訓練給付金制度」とは

厚生労働省・都道府県労働局・ハローワークHPより抜粋

働く人の主体的で、中長期的なキャリア形成を支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とする雇用保険の給付制度です。

■ 対象となる教育訓練経費(2023年4月現在) 市内居住者の場合

	1学期	2学期
入学金	282,000円	
授業料(1年次)	267,900円	267,900円
授業料(2年次)	267,900円	267,900円

■ 教育訓練経費に対する国からの支給額

	受講中(注1)	修了後(注1)(注2)
支給額	50%	50%と追加で20% = 70%

(注1) 各期において一定の単位修得が条件となります。受講中とみなされなかった期間以降は給付金が支給されません。また、支給額には上限がございますので、ご確認ください。

(注2) 修了時点で一般被保険者として雇用されている場合、及び修了後1年以内に一般被保険者として雇用された場合。

■ 授業料の例

	標準修業年限 2年の場合	長期履修 3年の場合	長期履修 4年の場合
金額	1年目 535,800円	1年目 357,200円	1年目 267,900円
		2年目 357,200円	2年目 267,900円
	2年目 535,800円	3年目 357,200円	3年目 267,900円
			4年目 267,900円
総額	1,071,600円		

※ 現行の授業料による例です。

※ 長期履修期間中に授業料が改定された場合には、改定後の額で再計算されます。

■2024年度入試日程

	秋期日程	冬期日程
出願期間	2023年 9 月22日(金) ～ 9 月29日(金)必着	2024年 1 月 4 日(木) ～ 1 月15日(金)必着
1次選考結果通知	2023年10月16日(金)	2024年 1 月26日(金)
2次選考試験日	2023年10月29日(日)	2024年 2 月11日(金)・(日)
合格発表日	2023年11月 2 日(木)	2024年 2 月16日(金)
入学手続	2024年 3 月11日(金) ～15日(金)	



小倉サテライト キャンパス

アミュプラザ小倉7F

小倉駅直結のアミュプラザ小倉7Fを使用し、平日夜間の授業を実施しています。MBA関係の図書・学生用パソコン・自習スペース・ミーティングスペース・コピー機などを完備し、快適な学習環境を提供しています。



北方キャンパス

モノレール競馬場前(北九州市立大学前)駅より 徒歩約3分

土曜日の講義を行っています。本館8Fには、マネジメント研究科資料室を設置しており、教員・学生の集い・交流・学習の場として、MBA関係の図書・学生用パソコン・自習スペース・ミーティングスペース・コピー機等を完備しています。



北九州市立大学ビジネススクール

北九州市立大学大学院
マネジメント研究科(専門職大学院)

〒802-8577 北九州市小倉南区北方四丁目2番1号

お問い合わせ先 学術振興課	TEL	093-964-4208
	FAX	093-964-4176
	E-mail	k2bs@kitakyu-u.ac.jp

窓口営業時間 月曜日～金曜日 8:30～17:15

<http://k2bs.kitakyu-u.ac.jp>

K2BS

検索

